鹿児島県立薩摩中央高等学校
高等学校DX加速化推進事業

DATE:	令和8年　4月～10月
Topic:	ＤＸを活用した国語科授業実践

1　取組の概要

国語科の各科目において、小テストやグループワーク等にてICT機器や、生成AI等を活用することで、生徒たちが主体的に学習する力や、自身の学習を調整しながら学びに向かう姿勢を育成する。

2　主な実践・学習効果等

（1）　小テストでの活用

3年次の「古典探究」の時間にGoogleフォームにて、単語テストを行うことで、即時に正誤が判明するためにフィードバックが容易なことと、間違えた問題や定着度の低い問題を反復して学習することが可能となり、基本事項の復習に効果がみられる。

（2）　AIを活用した文章要約

3年次の「論理国語」の授業で扱う文章を要約する活動において、AIを活用したグループと自身でまとめるグループとに分かれて行うことで、要約の文章の精度を上げたり、プロンプトによって要約が異なることから「目的や読み手に応じた要約の在り方」を多角的に学習し、これまでの要約において足りない部分や表現などに気づくことができるようになった。

（3）　デジタルホワイトボードを活用したグループ活用

1年次の「言語文化」の授業の中で、ホワイトボードで付箋を貼りながら、グループ活動を行うことでお互いの意見を交換しやすく、思考の可視化と共有が可能になった。また、リアルタイムでの協働作業となるため、グループにおいて活発な学習活動を行えるようになった。学習後はポートフォリオとして保存することで、単元の学習を生徒がそれぞれ振り返り、復習に役立てることができた。



